

# 福島の進路

## しんろ

地域の産業活性化を目指し、地域企業を「本気」で支援!

一般社団法人産業サポート白河 代表理事 加藤 和明

## 企業訪問

株式会社 ふたば

～活躍のフィールドを“ふるさと”から“世界”に広げて「未来を測る。」「未来を創る。」企業～

## 調 査

第70回 福島県内景気動向調査

～2016年度下期現況と2017年度上期見通し～

県内景況は、現況の停滞感が今後さらに続く見通し

## 寄 稿

景気見通し(2017年春) 景気は外需主導のもとで拡大へ

公益社団法人 日本経済研究センター 主任研究員 佐々木 仁

## 信達の歴史シリーズ

第1回 福島市のシンボル“信夫山”

福島県史学会 会長 村川 友彦

## 私の研究

連載にあたって

いわき明星大学 学長 山崎 洋次

脂質を標的としたペプチド創薬研究

いわき明星大学 薬学部 助教 佐藤 陽

<b>しんろ</b>	
地域の産業活性化を目指し、地域企業を「本気」で支援！ 一般社団法人産業サポート白河 代表理事 加藤 和明	2
<b>企業訪問</b>	
株式会社 ふたば ～活躍のフィールドを“ふるさと”から“世界”に広げて「未来を測る。」「未来を創る。」企業～	4
<b>調 査</b>	
第70回 福島県内景気動向調査 ～2016年度下期現況と2017年度上期見通し～ 県内景況は、現況の停滞感が今後さらに続く見通し	11
<b>福島経済マンスリー</b>	
1月の県内経済は、一部に弱い動きがみられるものの、 全体では持ち直しの動きが続いている。	29
<b>寄 稿</b>	
景気見通し（2017年春） 景気は外需主導のもとで拡大へ 公益社団法人 日本経済研究センター 主任研究員 佐々木 仁	37
<b>福島県の取り組み・施策シリーズ</b>	
人と動物の調和ある共生の実現に向けて 「福島県動物愛護センター」の開所 福島県 食品生活衛生課	42
<b>信達の歴史シリーズ</b>	
第1回 福島市のシンボル“信夫山” 福島県史学会 会長 村川 友彦	45
<b>私の研究</b>	
連載にあたって 脂質を標的としたペプチド創薬研究	いわき明星大学 学長 山崎 洋次 48 いわき明星大学 薬学部 助教 佐藤 陽 50
<b>企業法務セミナー</b>	
瑕疵担保責任 渡辺健寿法律事務所 弁護士 渡辺 健寿	55
<b>税務・財務・会計相談 Q&amp;A</b>	
経営の「羅針盤」としての会計の重要性 高橋宏和会計事務所 公認会計士・税理士 高橋 宏和	57
地方経済天気図	61
福島県景気動向指数	62
県内復興・経済日誌（2017年2月）	63
主要経済指標	65
<b>お知らせ</b>	
震災前の借入金とその借り換えの返済に悩まれている被災事業者の皆様へ 福島県 経営金融課	70



<今月号の表紙：南湖公園（白河市）>

南湖公園は1801年、時の白河藩主松平定信公が、身分の差を越え庶民も楽しむことができる「士民共楽」の理念で造った「日本最古」の公園です。国の史跡・名勝に指定されている他、南湖は農林水産省「ため池百選」にも選ばれています。湖畔にはツツジ、カエデなどが植えられ、春には満開の吉野桜と遥かに望む那須連峰の残雪とのコントラストが美しい、白河市民の憩いの場です。付近には定信公をご祭神とする「南湖神社」や茶室「共楽亭」などの見どころもあり、季節ごとに散策を楽しめます。そして忘れてはならないのが「南湖だんご」。公園と同じく200余年の歴史を持つこのだんごは、近隣の茶屋などがそれぞれの味を競って提供しています。「食べ比べ」も楽しいですよ！ 🍡🍡🍡



## 地域の産業活性化を目指し、 地域企業を「本気」で支援！

加藤 和明 (かとう かずあき)

一般社団法人産業サポート白河 代表理事  
白河市



### 【産業サポート白河について】

一般社団法人産業サポート白河は、県南地域（1市4町4村）のものづくり企業を積極的に支援し地域経済の活性化を図ることを目的に、白河市が中心となって立ち上げた産業支援機関です。

県南地域は以前より企業誘致に力を入れ、数多くの企業立地を実現してきましたが、地域の活性化をさらに押し進めるには地元企業の底上げこそが地域産業振興を牽引するという趣旨のもと、平成20年9月に任意団体として発足し、平成21年4月に一般社団法人産業サポート白河として法人化されました。

主な事業は企業訪問、人材育成事業、取引あわせん事業、地域企業情報発信事業、起業家支援事業となっておりますが、やはり活動の基本は、日々の企業訪問であり、企業からの貴重なご意見・ご要望や技術相談など、生の声を収集・取りまとめを行い、必要な支援を提案し、効果的に実現するためのサポートを行っております。

設立以来、来所を併せた相談件数はこれまで

に延べ1万件を超え、これらの収集した企業の「声」は我々の貴重な財産であり、この声がさらなる県南地域の活性化へのアプローチに大いに役立つものと考えております。

また、地域企業間の取引拡大や企業間連携のほか、高校生の地元定着を促進しミスマッチを防ぐための地域企業の紹介を兼ねた「しらかわ地域企業展示交流会」の開催、地域企業の技術力を収集した「しらかわ企業データベース」の構築や「しらかわ企業ガイドブック」の作成による情報発信の強化など、競争力の向上を図っております。さらには、販路拡大のため、東京ビッグサイトで開催される大規模産業見本市への共同出展を実施しております。

最近では、経済産業省や東北経済産業局などの国の機関や、福島大学をはじめとした高等教育機関と地元企業のパイプ役としての活動も増え、県南地域の技術力、競争力を維持する上での大事な役割も担っています。

県南地域には、経営規模は小さいながらも高い技術力を有する企業が数多くありますが、多くの



しらかわ地域企業展示交流会



大規模産業見本市

中小企業は販路拡大、人材育成、技術力向上、産学官連携などについて悩みを抱えるほか、最近では高齢化による「事業承継問題」や「知的財産の活用」についても相談があり、金融機関から弊法人へ派遣いただいている2名の相談員が専門的立場から積極的に支援しております。

このように企業からの多種多様な相談内容があることから、今後も関係機関との連携を深めながら、企業のニーズを迅速に対応するべく各種事業を引き続き展開し、支援機能の充実を図り、県南地域の強みを生かした産業創出を実現するため、地元根差した支援機関として活動してまいります。

### 【5Sによる人材育成と地域活性化】

弊法人のもうひとつの重要な事業は人材育成です。大学、短大などの高等教育機関の無い県南地域において、設立以来、「しらかわものづくり講習会」を中心とした製造業向けの座学・実技講習会を開催しており、延べ3,800人以上の方に参加していただきました。

製造業の「人材育成」というと、技術講習と考えられがちですが、実際に企業が求める人材育成は技術に限りません。特に中小企業ではISO9001・14001などの他、従業員の資質（社会人としての基本、応対や身だしなみ）が会社に及ぼす影響は大きいものです。

そこで、現在弊法人は「しらかわ5Sの関」という、地域の企業、特に中小企業を中心に連携して『5S（整理、整頓、清掃、清潔、しつけ）』に取り組む組織を立ち上げ、事務局を務めています。

この「しらかわ5Sの関」は、弊法人が①県南地域で人材育成事業を主体的に立案、計画、実施するサイクル（PDCA）を確立し、②企業だけで

はなく教育機関にも人材育成の重要性を伝え、参画を広く呼びかけて、③持続可能な産業人材育成の仕組みをつくり、④参画企業を組織化して連携を図る。という、福島県の補助事業に取り組んだ成果でもあります。

名称は国指定史跡である白河関跡にちなんで名付けました。平成27年8月に会員9社で発足し、現在15社で活動しています。

目下、会員企業の5S活動を支援・けん引できる人材を育て、会員同士で互いの5S活動を支援し合った結果、社内コミュニケーションが活発化し、判断力・決断力・持続力・改善力といった能力が備わった企業経営に貢献できる人材を育てる仕組みを構築している途中です。

具体的な活動としては、我々が先進事例として参考にしてている栃木県足利市で開催されている5Sインストラクター養成研修に3年間で6名派遣し、足利流5Sを学んだ人材を創出し、彼らが会員企業の5S活動を支援します。また、平成29年度には県南地域で5Sインストラクター養成研修会を開催することになっています。

他にも、事例発表会、講演会、工場見学会等で5Sの周知・定着を図っています。最近では、2月20日に5S発表会・講演会を開催しましたが、150人近くの方に参加していただきました。会員以外の参加者が2/3と、5Sへの関心の高さがうかがえると同時に、マンネリ化しがちな5Sの取り組みに変化を求める需要を感じ、今後の会員増に期待が持てます。

最終的には5Sを通し企業人として最低限必要なスキルを、企業から学校そして家庭にまで浸透させる事で、産業振興に繋がり地域の活性化が図れることを目指しております。

